

## 39 医療の場に笑いを取り入れる試み 第2報

偕行会長野 駒ヶ根共立クリニック 透析室

中村有里 岩元由香里 宮澤弥生 今井典子 西村清子

### 【はじめに】

維持透析患者は、腎移植を行わない限り一生透析を続けなければなりません。ずっと続く透析生活の中で、ホッと心が和んだり、思わずフッと笑ってしまうような「時」が必要だと感じます。

松江青葉クリニック院長で自らも透析を受けている春木繁一先生は、サイコネフロロジーの講演で、透析患者は、それまでの生活の変化により、喪失感が強くコミュニケーションには「ユーモア・笑い」が必要だと発表されていました。

当院では、2006年より「医療の場に笑いを取り入れる試み」として川柳などを用いて活動を始め、2007年この場でも報告しました。その後の活動の展開を報告します。

### 【笑いを広める活動】

川柳を患者に呼び掛け掲示すると共に癒しの空間を提供しようと、フットセラピーやフラワーアレンジメント、趣味で撮影した写真や絵画、盆栽など持ち寄られた作品の展示、笑える本の紹介なども行ってきました。そして、このような活動を行う会を、互いに癒し合えたらと願い「みんなで癒会(ゆかい)」と名づけました。みんなで癒会は、みんなで「笑い」合い、「癒し」合い、「励まし」合えるような活動を行う会です。(写真1)

川柳は、2007年8月よりお題を出し始め、年末には院内で川柳大賞を実施しました。2008年に入り、今までのお題の他、透析について日頃どのように思っているのかが表れてくる事を期待して、「透析川柳」のお題も出始めました。(表1)

「みんなで癒会」は  
みんなで「笑い」合い  
「癒し」合い  
「励まし」合える  
ような活動を行う会です。

この会のメンバーは、  
患者さま、ご家族、  
スタッフなどクリニックに  
関わるすべての方です。

写真1.

### 【お題】

2008年 1月	「初夢」	
2月	「雪」	【透析川柳お題】
3月	「春」	「透析への想い」
4月	「花見」	「透析への想い」
5月	「母」	「透析終了頃の思い」
6月	「父」	「週末の思い」
7月	「願い事」	「シャント」
8月	「きもだめし」「薬」	

表1.

4月には、クリニックの腎友会総会で「川柳を楽しみましょう」と題して講演を行いました。

フラワーアレンジメントは、患者より持ち寄られた花材を使用した展示や(写真2)、アレンジメント教室を開きました。



ワタさんのイラストーション  
あいしまつーです。  
うらやましそうなお話！



既述野宴も素晴らしいしりしりのまわー。やがて新しい麗玉ワタは、  
後日あいらしいがわんになりました。ごちそうめさー◎

写真2.

そして、2007 年末までの作品をまとめた本  
「泣いて 笑って みんなで癒会」を 2008 年 8  
月に発刊しました。(写真3)



写真3.

9 月には、長野全腎協の全県交流会で笑いの効  
用や川柳の紹介の講演を行い、参加 23 全施設より  
希望があり本をお譲りしました。

【結果】

川柳の投稿数は、2007 年までのペースを上回っ  
てきています。

本の中からいくつか川柳を紹介します。

○朝夕の バイタルサイン 気にかかり



イラストは、スタッフとその家族が描いています。

○耐え切れずビール飲み干しナースの小言が耳か  
すめ



○あっ！ヤバイ 今日針打ち痛い人  
この句は、患者の共感を得て、ロビーで話題にな  
っていました。

お題「透析への想い」で投稿された句です。

- 「頑張れ」は 禁句と我に言い聞かす
- いつの日か 普通になった 透析日

透析が 2 日空く「週末の思い」の句です。

- 喜ぶな 土日の管理が おそろしや
- 週末を 迎えしやれやれ生き延びた

また、2008 年患者会発行の小冊子に、このような  
文章が掲載されました。

65 才 女性 透析歴 22 年の方です。「私の思い」  
「皆さんにお世話になりながら、何とか今日まで  
命をつないできました。悩み・苦しみ、口数も減  
り笑いも消え動きたくないそんな時もありました。

(中略) 気持ちだけでも、これからの生き方を変えようと努力中です。お陰様で病院で笑いや川柳、面白い本など、また、素晴らしいお花を見せて下さり、ほっとして、大変心が癒されています。これからも、命ある限り、頑張ってください。」

また、展示したフラワーアレンジメントを写真に撮り詩をつけ、作品にしてくださる患者も現れました。

アレンジメント教室に参加した患者の作品です。  
○利かぬ手で 花挿す我に 満足す

### 【考察・まとめ】

クリニックに来院するとロビーには、フラワーアレンジメントや、川柳が並んでいます。



まず、それらを目にすることは、患者の心をほぐす一つの役割を果たしていると考えます。直接言葉は交わしませんが、ここから既にコミュニケーションは始まっていると思います。投稿作品から患者が、日頃口に出さない気持ちが、導き出せて来ていると感じます。そのような気持ちは、他の患者の共感を呼ぶことも多く、作者共々励まされ、仲間同士で癒されることに繋がっていると考えます。

透析患者は、さまざまな制限があり出来ないことばかりと考えがちです。しかし、同じ病気を持ち、透析歴も様々な他の患者の作品より得る物は多く、私達がアドバイスするより、患者の受け入れも良く、制限がある中での生活をどう楽しむかを見つけ易いのではないかと考えます。

患者が、患者同士の力で、自分の透析ライフをみつけ「笑顔」で過ごすことが多くなるよう、私達は今後も、「みんなで癒会」の活動を通して援助していきたいと思ひます。

○笑いある 透析ライフ めざしつ

患者の作品です。

### 【参考文献】

- 1) ベッドサイドのユーモア学  
柏木哲夫 株式会社メディカ出版
- 2) 笑いの健康学「笑いが免疫力を高める」  
伊丹仁朗 三省堂
- 3) 笑いは脳と心の処方箋  
昇幹夫 株式会社 リオン社
- 4) 笑いとう免疫力  
吉野横一 株式会社 主婦の友社
- 5) パッチアダムスと夢の病院  
パッチアダムス 株式会社 主婦の友社